

令和元年度 さくらんぼ園内における自己評価結果

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会
舞鶴こども発達支援施設 さくらんぼ園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	70%	30%	・利用児童が増えて狭く感じることもあるが、活動に応じて部屋の使い方を考えている。	・パーティションを購入し、個別課題のスペースを増やした。
	2	職員の配置数は適切であるか。	63%	37%	・基本は1対1で療育にあたるが、個々の子どもの様子や状況に応じて活動の内容を考え、職員の配置をしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	100%	0%	・ボードにスケジュールを提示し、子どもが見通しをもって活動できるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	90%	10%	・日々、掃除をし、清潔を保っている。 ・子どもの活動に合わせていくつかの部屋がある。	
業務改善	5	業務改善を進めるためにPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12%	88%		・グループでの日々の振り返りがきちんとできていない。PDCAサイクルによる業務改善にも課題がある。
	6	保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	75%	25%	・保護者の意向は常に把握し、できる範囲で内容を改善している。(日々の連絡、保護者アンケートなど)	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	89%	11%	・今年度はHPに掲載する予定である。	

	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14%	86%		・以前、第三者評価を行ったことがある。外部による評価は必要であると考えます。
	9	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	100%	0%	・府の社会福祉協議会主催の研修会や指導者向けの研修会等には、参加している。また、毎月1回、外部講師を招聘し、園内研修を実施している。本年度は、児童発達支援を行っている事業所に全員で視察に行った。	・研修の多様化が課題である。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	89%	11%	・子どもの実態については、それぞれの担当指導員がアセスメントを行い、保護者のニーズは個人懇談などの時間を設定して聞き取っている。児童発達支援計画(個別支援計画)はそれらをもとに作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	67%	33%	・必要に応じ、新版K式発達検査を行っている。	・日々の療育には、標準化されたものではないが、NCプログラムを活用している。標準化されたアセスメントツールの利用についても考えていきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドライン「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	67%	33%	・個々に合った発達支援は適切に設定されていると考える。特に、就学に関する移行支援は、保護者の思いに寄り添い、ていねいに行っている。	・必要な支援を適切に選択し、具体的に支援内容が設定できているかどうか、日常的に保護者に聞く必要がある。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	・意識して行っているつもりである。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	50%	50%		・活動プログラムは、そのグループのリーダーが、児童の特性や発達の状況を考慮して立てている。しかし、「チームで」ということに関しては、課題がある。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	89%	11%	・固定することがよいと思う部分は固定し、変化を加えたほうがよいと思う部分は、変化させながらプログラムを考えるように努めている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	・領域別に個々の子どもの状況を把握し、作成している。集団活動の場面も組み込んでいく。	

	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	90%	10%	・朝のミーティングは毎日実施している。その日の確認事項等、全員に伝えている。	・職員全員が共通理解できるよう、伝え方を考えていきたい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11%	89%		・本年度は、事務の時間を確保するため、気付いた点は日誌に記録し、次につなげるようにした。しかし、日誌に記入するだけの振り返りでは不十分であった。活動のねらいや展開が共有できるよう、振り返りの仕方を改善していく必要がある。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	・記録は丁寧に行っている。	・日々の記録以外の書類作成が多いので、要領よく行えるようにしていきたい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	100%	0%	・保護者からの聞き取りで、改めて気づけることがあり、その場合は見直すようにしている。	・モニタリングは行っているが、保護者の願いやニーズをうまく吸い上げることは難しい。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	67%	33%	・児童発達管理責任者が必要に応じて対応している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	90%	10%	・市の保健センターや乳幼児教育センター等と連絡をとり、子どもの実態や保護者の願いについて情報共有している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と関連した支援を行っているか。				・医療的ケアが必要な子どもは通園していない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。	100%	0%	・児童の主治医とは定期的に連携をとっている。(毎月1回、舞鶴こども療育センターの医師とのケースカンファレンス)	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	90%	10%	・年1回公開療育を行い、各並行通園先の先生と情報を共有している。また、必要に応じて園訪問をしたり、療育の見学をしてもらったりし、互いに理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	89%	11%	・就学前に療育参観(連絡会)を設定し、就学先の先生と懇談をしている。そのとき、移行支援シートを渡している。また、保護者の希望により、小学校の学校見学を行っている。	

	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	86%	14%	・市内に児童発達支援事業所はない。年3回、京都府療育教室連絡協議会幹事会に出席し、情報を得たり意見交換をするなどしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。				・それぞれが、並行通園している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	89%	11%	・療育終了後に子どもの状況を伝えている。保護者とは、「共通理解」がもてるよう、ていねいに関わっている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)の支援を行っているか。	90%	10%	・年5回、母親教室を行っている。また、親子療育を行い、どのような活動をしているか実体験にて支援につなげている。	
保護者への説明責任	32	運営規則、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	・ていねいな説明を心がけている。	
	33	児童発達ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	・保護者に「児童発達支援計画」をていねいに説明し、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	・悩みや相談があればその都度伺い、時間を設けて対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	100%	0%	・父母の会はない。しかし、年5回、母親教室をもっている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応しているか。	100%	0%	・保護者の都合に合わせ、相談日や懇談を調整して対応している。また、臨床発達心理士の相談を随時対応できるようにし、申し込みがあれば日程調整をして対応している。	

	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	・毎月、園便りを発行し、早め早めに行事や次月の予定を伝えている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	100%	0%	・電子データ、文書データ等、その取り扱いについては十分留意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	・必要に応じ、絵や文字で伝えるようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。				・地域住民が参加するような行事は行っていない。今後もその予定はない。
非常時等の対応	41	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	78%	22%	・計画的に行っている。	・保護者への周知は不十分である。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行っているか。	90%	10%	・計画的に行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	90%	10%	・保護者から聞き取りをし、把握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				・保護者からの聞き取りなどでアレルギーの有無は把握しているが、食事をとることがないため、医師の指示書に基づく対応はしていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	0%	100%		・事例集は作成していない。予測される危険性については留意し、療育を行っている。
	46	虐待を防止するため、職員研の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	37%	63%	・研修会には参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織内で決定し、子どもや保護者に事前に十分説明して了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。				・身体拘束を必要とする子どもはいない。